

あなたと議会をむすぶ

議会広報

令和5年8月24日発行

第175号

あじがさわ

発行…青森県鱒ヶ沢町議会 〒038-2792 青森県鱒ヶ沢町大字舞戸町字鳴戸321番地 編集…議会広報編集委員会 ☎0173②2111(代)

この広報紙は再生紙を使い、議員の自主編集で発行しています。



～ 議員行政視察 ～

今年度の行政視察は、岩手県久慈市の企業で行われている再生可能エネルギーを利用した小売電気事業、木質資源を用いたバイオマスエネルギーの活用事例を視察しました。

(写真は久慈バイオマスエネルギー株式会社視察時のようす)

※視察内容は、8～9ページに載せています。

(令和5年6月29日)

6月
定例会号

第2回定例会	2～3
一般質問(10人が傍聴)	4～6
議員管内行政視察	7
議員視察レポート 岩手県久慈市	
再生可能エネルギー、バイオマスエネルギー活用事例	8～9
議会活動、議員研修会	10

鱒ヶ沢町議会ホームページへアクセス



鱒ヶ沢町議会

検索



QRコードは
こちらから

令和5年
第2回
定例会

<会期>
6月6日~8日

電気、ガス、食料品等価格高騰 重点支援事業実施へ補正予算案可決

令和5年第2回定例会が6月6日から8日までの日程で開かれました。開会日の6日、条例改正案、一般会計補正予算案など議案6件、報告2件、意見書案1件が上程されました。

7日の一般質問では、議員3名が空き家対策について、観光商業施設海の駅わんどの空きスペースと集客について、町道赤石溪流線並びにくろくまの滝線についてなどを町政へ問いました。(質問内容は4~6ページに掲載しています。)

最終日には、本会議において審議の結果、全ての議案が原案どおり議決されました。

また、議員からは議員定数削減に関する発議1件が追加上程され、議決されました。主な議案等は次のとおりとなっています。

【主な歳出補正予算】
・産学官連携事業費
(鱒ヶ沢高校支援事業助成金)
277万2000円

・電気・ガス・食料品等価格高騰重点支援事業費
6329万5000円

・低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金給付事業費
1200万円

財産の取得について

可決

除雪ドーザ(11トン級車輪式) 1台の購入に係る契約を締結するためのもの。

【仮契約日】

令和5年5月24日

【契約金額】

2186万8000円

【契約業者】

コマッカスタマーマーサ
ポート株式会社 東北カ
ンパニー弘前支店

▼専決処分

承認

○専決第1号 令和4年度一般会計補正予算

地方交付税、地方特例交付金等が年度後期に決定したことによる急施を要する予算措置。
歳入・歳出それぞれ3748万4000円減額し、補正後の予算総額は87億5343万2000円とする。

○専決第2号 町税条例の一部改正

地方税法等の一部を改正する法律等が令和5年4月1日に施行されることに伴い、町税条例の一部を改正するため、専決処分したものを。

特別職の職員の給与に関する条例の改正

職員の不祥事に対する特別職の責任を明確にするため、町長及び副町長の令和5年7月分の給料月額を10分の1減じる特別措置を実施するためのもの。

3327万6000円となりました。

▼条例の一部改正

可決

森林環境整備基金条例の改正

公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律の一部を改正する法律が施行されたことに伴い、法律名を変更するためのもの。

▼令和5年度一般会計補正予算

可決

令和5年7月1日施行

強化交付金
600万円

・県ひとり親世帯等臨時特別給付金給付事業費補助金
600万円

一般会計予算は、歳入・歳出それぞれ9127万6000円増額し、補正後の予算総額は89億

・財政調整基金繰入金
522万3000円

議員発議による 条例改正案可決

令和6年3月任期満了に伴う 町議会議員一般選挙の定数1減の11人へ

～条例改正案の趣旨説明～

当町議会の議員定数は、平成24年3月執行の一般選挙から12人としてきたところですが、令和2年の国勢調査で当町の人口は9044人まで減少しました。

人口減少と高齢化による過疎化が進展する中であっても、当町議会としては地方自治の本旨に基づく、住民の福祉の増進と町政発展のため、一層町民の声に耳を傾け、議会一丸となって鋭意努力してまいる所存であります。

私たちは、人口減少社会の到来に伴う様々な課題に早急に対応する責務を担っていることから、議員定数の見直しは必要不可欠であると考えます。

よって、次の町議会議員一般選挙から議員の定数を1人削減し、11人とするため、当該、一部改正条例を発議するものであります。



条例改正案の趣旨説明をする新保勝敏議員

6月8日、町議会の議員の定数を定める条例の一部を改正する条例の制定について、議員発議として改正案が提案され、可決されました。
この改正案は、議員全員による総意により発議されたもので、新保勝敏議員が代表し趣旨説明を行いました。
これにより、令和6年3月30日任期満了により行われる改選は定数が11人となります。

総括質疑のようす

第2回定例会総括質疑の内容を一部抜粋してお知らせします。

【低所得世帯及び子育て世帯に対する生活支援給付金について】（佐藤 薫議員）今回の補正予算に予算計上されていますが、実際対象者の元に給付金が届くのは、いつ頃になるのかお聞かせください。

答（神総務課長）システム改修もありますが、今のところ8月頃になる予定であり、速やかに対象者の手元に届くように努力していきます。



～議会の意見を国政へ～

全会一致で可決された意見書は、
国へ提出されています

▼意見書案第1号

インボイス制度の実施
延期を求める意見書

可決

【内容】

コロナ禍が暮らしと営

業の危機的状況を深刻化させています。ウクライナ侵攻に起因するサプライチェーンの混乱や円安の影響で、燃油や資材などの価格高騰、納品遅れに加え、食品や生活必需品の大幅な値上がりが見

い打ちをかけています。

こうした影響を受け、

地域経済の中心を担う中

小・小規模事業者は存続

の危機に瀕しており、物

価高騰対策などの支援が

求められています。10月

からのインボイス実施は、

事務負担の増加を強いる

とともに、免税事業者が

取引から排除される恐れ

があります。このままでは

インボイス導入を機に、

個人事業主や農業従事者、

フリーランス、文化事業

者などを廃業の危機に追

い込み、さらなる地域経

済の衰退につながることは

必至です。

私たちは住民の暮らし、

地域経済、地方行政にも

深刻な打撃となるインボ

イス制度導入の延期を強く

求めます。

【提出先】

衆議院議長、参議院議

長、内閣総理大臣、財務

大臣、経済産業大臣

一般質問



佐藤 薫議員

空き家対策について

6月定例会では、3名の議員が質問しました。一般質問では町の行財政全般に関し町長の考えや、町の施政方針を問います。

特定空き家の解体助成金を引き上げられないか 答へ検討課題として内部で協議する

5件で、うち老朽及び倒壊している空き家は196件となっています。町は令和元年度から令和4年度にかけて特定空き家の除却17件に対し助成金を交付し危険な特定空き家の除却を推進していますが、空き家の数は平成26年度の調査から111件増加しています。また、空き家の増加を抑制する上で、助成金を活用した危険な空き家の除却や空き家・土地バンク制度を活用し再利用できる空き家の利活用の推進、管理不全の空き家所有者等に対する適正管理の指導、助言等を行っています。

次に、危険空き家の対策ですが、除却を希望する特定空き家の所有者に対し、予算の範囲内において30万円を限度として、除却費用の2分の1相当額を助成しているほか、危険な空き家の適正管理について指導、助言の通知を出しています。指導通知を出しても管理が改善されない空き家や所有者不明の危険な空き家が強風等で近隣に被害を及ぼす可能性がある場合は、危険な箇所をネットで囲むなどの緊急安全措置を行っています。

問・当町でもかなり早いスピードで空き家が増えています。災害などに備え、定期的に調査し、空き家の最新情報を把握すべきと思いますが如何ですか。

答弁・神総務課長
空き家が増えていますので、2年又は3年に1度は調査するなど、定期的に調査してまいります。

問・町の空家対策計画によると、空き家の調査結果はデータベース化し最新情報を把握する、そしてそのデータを更新して



緊急安全措置が行われた空き家

いくとありますが、空き家の状況はデータベース化されていますか。

答弁・神総務課長

データベース化に関しては、民間の地図情報等を活用し、また打合わせしながら今後構築してまいりますと考えています。

問・町は、危険な空き家を除却、解体する場合は30万円を限度とし助成していますが、産業廃棄物処理費用の高騰等で、従来と比べかなり解体費用がかさむのが実情です。助成額の引上げが解体の速やかな促進につながる可能性があると思いますが、助成額を50万円位まで引き上げることはできないものか。

答弁・平田衛町長
解体費用の助成について、今の物価高騰等も踏まえ、これからの検討課題として内部で様々な協議してまいります。

問・今年度は、年間5件分150万円の予算を見込んでいます。危険家屋の解体は近隣住民の安全安心につながる重要なことだと思しますので、5件分を超えた申請があった場合でも、町単独経費での予算対応を検討できないか。

答弁・神総務課長
現在は、年間5件という限定的な助成事業を行っています。助成金の額の検討と同様に、5件を超えた申請があった分についても検討してまいります。

意見・民間の総合研究所の推計では、今後空き家の取壊しが進まない場合、15年後には、全国の総家屋の3割が空き家になる可能性があると考えられます。

問・急激な人口減少、少子高齢化等による空き家の増加については、全国的な問題でもあり、当町においても深刻な状況にあると認識しています。空き家の現状と実態把握について、また特定空き家などの危険家屋について、どのような対策を講じているのか伺います。

答弁・神総務課長
当町の空き家は、令和3年度の調査で、鱈ヶ沢地区173件、舞戸地区107件、赤石地区107件、鳴沢地区116件、中村地区92件の合計599

次に、危険空き家の対策ですが、除却を希望する特定空き家の所有者に対し、予算の範囲内において30万円を限度として、除却費用の2分の1相当額を助成しているほか、危険な空き家の適正管理について指導、助言の通知を出しています。

問・町の空家対策計画によると、空き家の調査結果はデータベース化し最新情報を把握する、そしてそのデータを更新して

問・今年度は、年間5件分150万円の予算を見込んでいます。危険家屋の解体は近隣住民の安全安心につながる重要なことだと思しますので、5件分を超えた申請があった場合でも、町単独経費での予算対応を検討できないか。



菊谷 忠光議員

海の駅わんどの空きスペース対策は 答へ2店が出店に向けて準備中

観光商業施設海の駅わんどの空きスペースと集客について

問・今年3月に海の駅わんどの漁協直売所が撤退したため、空きスペースが拡大し、全体の集客について町民の多くから心配の声が寄せられている。何か対策を考えているか。

答弁・三上政策推進課長

海の駅わんどの漁協直売所は、コロナ禍による利用者の減少、ハタハタやヤリイカなどのここ数年来の漁獲量の低迷による販売額の激減が大きき影響し撤退に至ったものと聞いており、誠に残念に思います。

撤退後の店舗対策とし



7月10日海の駅わんど内に開店した2店

て、海の駅わんどの指定管理者である鱈ヶ沢町観光協会とともに町内の鮮魚店数店に出店の相談をしましたが、全て断られました。

その後交渉した店では、鮮魚販売はできませんが、海鮮丼、お刺身、干物等を販売する店と、フルーツサンド、スイーツ等を販売する店の2店が漁協直売所の半分のスペースで、今月下旬の出店に向け準備中とのこと

際には、海の駅わんど全体の利用者増加につながるよう、町としても協力支援してまいります。

なお、ほかの空きスペースについても、町観光協会と一緒に早期に出店できるよう対策を考えてまいります。

問・例えば、空きスペースを使って赤石川のアユやイトウの販売、また役場で展示している稚魚やアワビの水槽展示はできないものか。

答弁・三上政策推進課長

アユ、イトウについては、既に加工品等を海の駅わんど内のシーポップで販売のため、直接販売は考えていません。

また、稚魚の水槽展示については、飼育、管理を行う職員がいないため、

予定はありません。

問・連休中に海の駅わんどを訪れた方から、海の幸、特に鮮魚が購入できず、買物満足度が低下したとの感想を聞いた。

このままでは、観光客、リピーター客が減っていく恐れがあると思いが、町では今後どう取り組んでいくのか伺います。

答弁・三上政策推進課長

漁協直売所の撤退以来、鮮魚等の購入ができず、館内が寂しくなったとの声は伺っています。今出店準備中の店の海鮮丼、お刺身をはじめ、あじ・彩・感の焼き魚、揚げ物、魚の総菜、加工品等、品揃えを支援して満足度向上に努めてまいります。

また、四季折々の町の商品PRに努め、海の駅

わんどの集客、売上増加に取り組んでまいります。

問・集客のために、全国から手作り職人が集まるクラフト展、CIPPOINTを再度開催することはできないでしょうか。

答弁・三上政策推進課長

過去に開催したCIPPOINTは大変大勢の来場者で賑わい、人気のあったイベントでした。

町では復活に向けて計画し、間もなく実施というところで企画された方が亡くなり、計画がなくなったため、実施は難しい状況です。

問・海の駅わんどは町のシンボリック建物で、観光需要もありますので、海の駅わんどを中心としたエリアを発展させなければならぬと思うのですが、町の考えを伺います。

答弁・三上政策推進課長

海の駅わんどがある本町地区は、現在弘前大学

と連携し、本町エリアのにぎわい創出のプラン策定に取り組んでおり、その中で町民アイデア会議や町民からのヒアリング等による意見を反映させたプランを年度末には報告します。

集客、賑わいということ、町では今後も9月に肉のフェスティバル、11月にスイーツフェス等々、海の駅わんど周辺でのイベント、出展販売を行い、本町地区の賑わいにつなげてまいります。

意見・これからの町の観光や海の駅わんどを中心とした本町エリアの発展に向け、取り組みを進めていただきたい。



5月14日行われたヒラメフェスのようす



佐藤 昭司議員

町道赤石溪流線並びにくろくまの滝線について

問・昨年8月の大雨により、町道赤石溪流線並びにくろくまの滝線が甚大な被害を受け、現在も通行止めが続いています。今後、復旧に向けてどのような対策を考えているのか、また通行止めが解除されるのはいつ頃になる予定なのか伺います。



通行止めを知らせる看板

町道赤石溪流線の通行止め解除の予定時期は答へ通行止め解除は令和8年度以降の予定



昨年8月の大雨による町道赤石溪流線土砂崩れの様子

答弁・澁谷建設管財課長 町道赤石溪流線は、令和4年8月の大雨で、土砂崩れや河川の増水による護岸の崩壊、道路の崩落等、災害箇所が21か所あります。

そのうち、町道赤石溪流線のゲート入口から赤沢橋付近の道路復旧工事1か所を令和4年度に発注し、現在工事が進められています。残り20か所のうち10か所については、令和5年度で復旧工事を発注し、整備してまいります。また、残りの10か所については、保安林の解除をしなければ工事に着手できないため、現在林野庁に対して保安林の解除の申請を進めています。しかし、保安林の解除には約1年以上を要するというところで、早くても令和6年8月以降でなければ復旧工事ができないため、工事の進捗状況にもよりますが、令和7年度中の完成、通行止め解除は令和8年度以降になると考えています。

次に、くろくまの滝線については、入口付近で法面の崩落が発生しており、そのほか、くろくまの滝までの間で数か所の崩落などの災害が発生していると思われます。そのため、津軽森林管理署では復旧工事に向けて、令和5年度で調査設計業務を発注したということですので、恐らく令和6年度、もしくは7年度中には復旧工事ができるものと思われれます。その後、くろくまの滝線の道路状況を確認し、改修工事が必要な場合もあります。通行できるようになるのは、令和8年度以降になるものと考えています。

答弁・澁谷建設管財課長 町道赤石溪流線の災害箇所21か所のうち、くろくまの滝線入口までは、令和4年度に発注した工事を含めて11か所の災害現場があります。そのうち、令和5年度では7か所の発注を見込んでおり、予算は、9160万8000円です。また、保安林の解除によつて令和6年度に発注できる災害箇所は3か所で、予算は9208万1000円です。いずれも、くろくまの滝線入口までの災害復旧工事が順調に施工され、また、津軽森林管理署の復旧工事も早期に施工できるよう連携しながら、一日も早くくろくまの滝へ通行できるよう進めてまいります。

通、通行止めを解除できないものか。 答弁・澁谷建設管財課長 保安林の解除をしなければ復旧工事に着手できないということの関係省庁からも回答を得ていますが、その3か所については関係機関と協議しながら、できるだけ早期に復旧できるよう努めてまいりますので、ご理解を頂きたいと思えます。 意見・できるだけ町道赤石溪流線のくろくまの滝線入口までと、そしてまた、くろくまの滝線が同時に通行止め解除となるようにお願いします。 今年、白神山地世界自然遺産登録30周年の年でもあり、このときに通行止めということは、本当に残念であります。 どうか林野庁と連携を密にし、一日でも早い通行止め解除をお願いいたします。

議員管内
行政視察

昨年8月の大雨による
災害関係現場を視察

6月16日、議員11名が参加し、管内行政視察が行われました。
視察場所は、昨年8月の大雨により災害が発生した中村川右岸護岸崩落現場、鰐ヶ沢浄化センター、被災家屋から搬出された災害ごみの置場となった大高山災害ごみ仮置場、県代行で復旧が行われている二級町道山子線開晴橋の4カ所で、加藤隆之副町長が同行し、担当から現状の説明を受けました。

◆中村川右岸護岸崩落現場

中村川右岸の護岸は新田町集会所裏手と河口付近で崩落し、この日は新田町集会所裏手を視察しました。



中村川河口付近のようす

青森県西北地域県民局
地域整備部鰐ヶ沢道路河川事業所職員から工事の進捗状況について説明があり、川をせき止めて工事を行うため川幅が狭くなることから、雨の時期でもあり、様々なことを考慮しながら、計画を策



説明を受ける町議会議員

定して今後工事に入る予定とのこと。

◆鰐ヶ沢浄化センター

施設周辺の盛土や災害時の水位の状況等説明を受けた後、建物を視察しました。



浄化センター地下のようす



泥の跡が残る地下室天井付近

機械系統がある地下室が水没したため、復旧には時間を要し、汚泥は移動脱水車で処理されているとのこと。

◆大高山災害ごみ仮置場

被災家屋から搬出された災害ごみ仮置場を視察しました。



昨年8月15日のごみ仮置場のようす

災害発生直後から次々と運ばれた災害ごみも大部分の搬出を終え、処理に時間を要する消火器やオイルタンク等を残すのみとなりました。



大部分の搬出を終えたごみ仮置場のようす

これらは、専門業者等に処理を依頼し順次処理される予定とのこと、全てのごみが無くなった時点で、環境への調査（土壌調査）を行い、影響の有無を確認した後に閉鎖する予定とのこと。

◆二級町道山子線開晴橋

大雨の後、一部橋脚が沈下したため橋梁を全面通行止めとし、町が青森県に支援を要望し、災害復旧について県が代行工

事を行うことになった、復旧現場を視察しました。
青森県西北地域県民局
地域整備部鰐ヶ沢道路河川事業所職員から工事の進捗状況について説明がありました。



復旧工事が進む開晴橋



説明を受ける町議会議員

令和5年度議員行政視察

岩手県久慈市



6月29日(木)
久慈地域
エネルギー株式会社
久慈バイオマス
エネルギー株式会社

R e p o r t
議員行政視察

自立した持続可能な地域社会の達成へ

再生可能エネルギー、バイオマスエネルギー

活用事例を視察

町議会では、6月29日岩手県久慈市を訪れ、再生可能エネルギーの地産地消等エネルギー活用事例を視察しました。視察内容について、佐藤昭司議員のレポートで紹介します。

岩手県久慈市は、岩手県北東部の沿岸に位置し、東側は太平洋に面した海岸段丘が連なり、西側は、遠島山など標高1,000m以上の山嶺を有する北上高地の北端部にあたる。

また、東流する久慈川・長内川等の河川が北上高地を開析し、急峻な渓谷を形成しながら太平洋に注いでいる。伝統工芸の「小久慈焼」、国内最大の産出を誇る「琥珀」などの地域資源に恵まれている。

令和5年4月30日現在の総人口 32,331人

今年度の議員行政視察

は、再生可能エネルギーの地産地消や木質バイオマスエネルギーを活用している岩手県久慈市を訪れました。

6月29日

久慈地域エネルギー株式会社

・久慈地域エネルギー株式会社概要

東日本大震災の停電から電力確保と自立型発電を目指し、次世代に残せるものをとの思いから、小売電気事業を始めるため平成29年に民間企業4社が出資し会社を設立。平成30年2月に経済産



再生可能エネルギーの説明を受ける議員

業省から小売電気事業者の認可を受け、この年に久慈市と民間企業1社が資本参加。同年6月から久慈市の主な施設と出資企業を中心に電力供給を開始。

自治体の電気料金削減、電気事業収益の地域循環と地域の活性化、地産地消、地域の電気料金の削減等に取り組んでいる。

・再生可能エネルギーの地産地消

令和2年4月から県が運営する滝発電所で発電された環境にやさしいクリーンな電気の供給を受け、アマリングリーン電

気と名付け久慈市文化会館アンバーホールへ供給を開始し、久慈市の公共施設、民間事業所、一般家庭に供給している。このほか地産地消の再生可能エネルギーとして、久慈地域内の太陽光発電施設の電源を活用している。



久慈市駅前のようす





木質バイオマスについて説明を受ける議員

東日本大震災前から、久慈地域の豊かな森林・林業・木材産業から排出される木質資源を何かに利用できないかと考え、平成24年から木質バイオマスの地域利用調査を始める。

平成26年2月会社を設立し、経済産業省補助事業（地域再生可能エネルギー熱導入促進事業）に採択され、ボイラ製作、プラント建設を行い、平成28年に稼働。

久慈バイオマス
エネルギー株式会社
久慈バイオマスエネルギー株式会社
の概要

※木質バイオマスとは：
再生可能な生物由来の有機性資源で木材からなるものをいう。木は成長過程で一定の二酸化炭素を吸っているため、燃焼してそれを排出しても、総体的な二酸化炭素量は増えず、環境にやさしいとされています。

大規模園芸団地への熱供給、市内施設への乾燥チップ販売を行っている。

林業が盛んな久慈市では、木材加工の前処理段階で発生する広葉樹や松の樹皮、製材時の端材などが大量にあり、不揃いで扱いにくい、使い道のないあまりものとされていた。これを扱いやすいものにできれば燃料として利用できるのではないかと考え、木質バイオマスとして活用できないか調査検討され事業化された。

木質資源を原料とした
エネルギー供給



⑤敷地内に60棟並ぶ菌床しいたけ栽培用ハウス



⑥栽培用ハウス内のしいたけ

温水はハウスの暖房用に供給

蒸気は菌床の殺菌用に供給

排熱で乾燥された木質チップを販売

燃焼施設でエネルギーへ変換



③燃焼され温水、蒸気として供給
排熱は木質チップの乾燥に利用



④温水は熱導管で、蒸気は供給管で施設内へ

送風ダクトで燃焼施設へ

木質資源から木質チップへ



①敷地内に積み上げられている木質資源



②細かくし乾燥される木質チップ

市内の温泉施設等が燃料として利用



挨拶をする畑中勇吉久慈市議会議長



お礼を述べる神孝議長

久慈市議会を訪問
昨年8月の大雨により鱈ヶ沢町は大きな被害を受けました。この時、当町は「歴史文化で結ぶ友好協定」を締結して交流をしている久慈市から、支援物資や見舞金等多くの支援を受けました。また、久慈市議会からも見舞金を受けたことから、そのお礼のため久慈市議会を訪問しました。

行政視察を終えて



久慈市議会議場での記念撮影

今回の行政視察は、再生可能エネルギー、バイオマスエネルギー活用事例ということで、馴染みのない分野ではありましたが、どちらの事業も資源を有効に活用し、地元還元して、地域を活性化していこうという事業者の強い思いと取り組みが実を結んだものでありました。

異常気象により災害が多い昨今、環境を守っていくことやライフライン確保の大切さを考えさせられた視察でした。

〈記 佐藤 昭司〉



安全祈願祭のようす

7月14日、はまなす公園において、鱈ヶ沢海水浴場安全祈願祭が行われ、議員9名が出席しました。議員を代表し神孝議長が玉串奉てんを行い、町内外から多くの海水浴客が訪れるはまなす公園・海浜公園の期間中（8月20日まで）の安全を祈りました。

鱈ヶ沢 海水浴場 安全祈願祭

議員 研修会

県下町村議会議員研修会 「これからの政局・政治展望」



講演する須田慎一郎氏

7月19日、リンクモア平安閣市民ホール（青森市）において、青森県町村議会議長会主催の県下町村議会議員研修会が行われ、町議員8名が参加しました。講師にはテレビやラジオ番組などにも多数出演しているジャーナリストの須田慎一郎さんが招かれ、「これからの政局・政治展望」と題しての講演がありました。



会場内のようす

須田氏は、国会の動きで注視している点などを交え、今後の衆議院解散の可能性やこれからの政治展望について、少子化対策強化のため不足となる財源確保に向けた増税の可能性や、今年の政府税制調査会で検討されている退職金にかかる控除額の見直しについてなどを、テンポ良く話していました。

第3回定例会の予定

議会日程は、議会運営委員会において正式に決定されます。

開会中は町役場1階町民ホールのモニターに、議会のようすが流れています。

開催日程、一般質問の議員氏名、質問事項については町防災無線、町ホームページでお知らせします。

詳しくは、議会事務局へお問い合わせください。

▼9月8日（金）

開会予定です

《開会後の日程は

次のとおりです》

▽9月12日（火）

一般質問

▽9月13日（水）

総括質疑

各常任委員会

決算特別委員会

▽9月14日（木）

討論、採決、閉会

特集 はつらつチャレンジャーは休載します。